

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名 東淀川区

学 校 名 新庄小学校

学校長名 栄西 敏記

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・新庄小学校では、第6学年 44名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科、算数科、理科いずれも平均正答率が、全国と大阪市の平均を上回ることができた。平均無回答率において、全国と大阪市の平均より、三教科いずれも低いポイントを示しており、児童が粘り強く取り組むことができていると考えられる。したがって、これまでの研究や指導の成果が出たと言える。

教科別に全国と大阪市の平均を比べると、国語科は全国を4.2ポイント、大阪市を6ポイント、算数科は全国、大阪市ともに6ポイント、理科は、全国を4.9ポイント、大阪市を7ポイント上回ることができた。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語科〕領域別にみていくと、特に「(1)言葉の特徴や使い方に関する事項」「B書くこと」「読むこと」について、全国と大阪市の平均より高い水準にすることができた。これは、日頃の朝学習や漢字検定の取り組みの成果と言える。

〔算数科〕どの領域においても、全国と大阪市の平均を超える水準となった。特に「C測定」「C変化と関係」については、高い水準となった。これは、算数科を研究教科として重点においた成果である。

〔理科〕どの領域においても、全国と大阪市の平均を超える水準となった。特にB区分「生命を柱とする領域」において、高い水準にすることができた。これは、日頃から児童の興味、関心を引く指導の成果である。

質問調査より

児童は落ち着いて学習に取り組んでいる。国語科、算数科、理科いずれも、授業内容がよく分かる児童が多くなっている。高学年になるにつれて、児童それぞれで得意、不得意があるようではあるが、ある程度の興味をもって学習に臨んでいる。特に、学力向上支援チーム事業において、スクールアドバイザーの先生からご指導をいただきながら、算数科を中心に焦点をしばって研究に取り組んでいる。

また、質問紙の結果から、全国と大阪市の平均水準程度で、先生にしっかり認められながら、自己肯定感をもち、学校生活を過ごすことができている。

今後の取組(アクションプラン)

引き続き、教育活動のあらゆる場において、賞賛する場を多く設定し、自己を肯定する機会が得られるようにしていく。

学習においては、朝学習の取り組みを続けていく。また、復習や自身の興味を深化するために、自主学習にも取り組んでいく。さらに、2月の漢字検定を目標に「新庄っ子国語プリント」「漢字検定の過去問プリント」などで学習を積み重ねていく。

授業においては、教職員が指導の共通認識をもち、引き続き、学習への興味関心を高めながら、多角的な考えを広げられるような展開をめざしていきたい。
